

第5学年*組 道徳学習指導案

指導者

1 主題名 精いっぱいに生きる 3-(1) 生命尊重

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

内容項目3-(1)は、「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」ことをねらいとしている。生命は、他の何ものにも代えがたい、かけがえのないものである。それは親から子へ、子から孫へと受け継がれているものであり、多くの人々に見守られ、育まれるものである。「自分の命だから、どうしようと自分の勝手」では決してない。また、生命は有限なものである。限りあるからこそ精いっぱい生きることが大切である。10歳を越えた児童に、改めて自分の命、他人の命の重さを感じ、大きさを考え、尊重しようとする心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態(男子**人、女子**人、計**人)

本学級の児童は、友達を思いやり、自分のできる手助けを最後までやり遂げようとする素直な気持ちをもっている児童が多い。生命に関する、「命は大事である」という認識はきちんと持っている。これまでの指導や経験を通して「命を大切にしていくこと」とする考えは深まってきたように思える。本時では道徳の授業で初めて「死」についてふれる機会となる。事前のアンケートより、児童は「死」をマイナスな感情として捉えていることが多い。しかし、「死」をみつめることによって、生きることの尊さに気付き、より命の大切さに気づけるようにしたい。

「死」についてのアンケート

5月19日(*人調べ)

○「死」についてどのようなイメージをもっていますか。(複数回答)

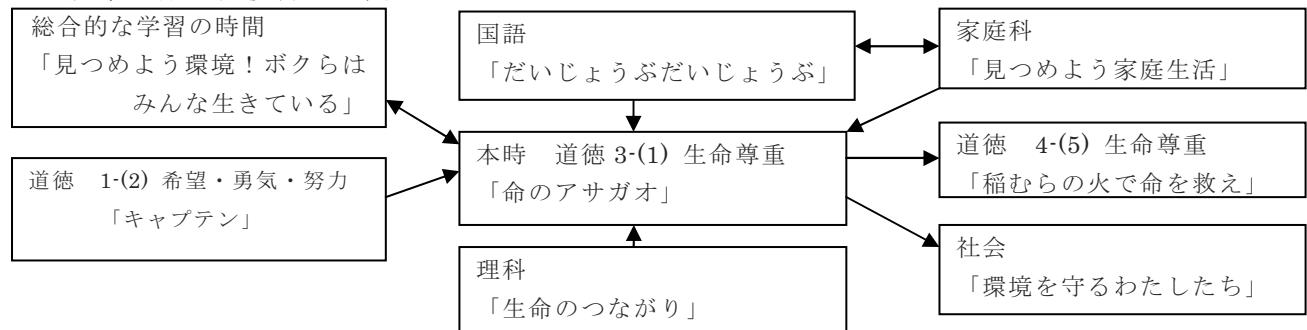
- | | | |
|--------------|------------|----------------|
| ・こわい **人 | ・暗い **人 | ・自分とは関係ない *人 |
| ・考えたことがない *人 | ・悲しい *人 | ・さびしい、かわいそう *人 |
| ・おそろしい *人 | ・家族との別れ *人 | |

(3) 資料について(資料名:「命のアサガオ」出典名:「5年生の道徳」文渕堂)

本資料は実話をもとに書かれた話を、道徳の授業用にまとめたものである。運動が大好きな光祐君はナマズの「コシヒカリ」のえさのミミズを冷蔵庫の中に入れて、お母さんを驚かせるような活発な子どもである。5歳の春、突然白血病と宣告される。つらい治療に耐え、いったん退院して、小学校入学。運動会の50m走で最下位になってしまいながらも頑張って走り抜いた。学校でアサガオの種をまく。治療計画どおり再入院。苦しい治療に耐え、夏休みには5日間の外泊許可をもらう。「コシヒカリ」は死んでいた。病院に戻った後、容態が急変する。7歳で亡くなる。お母さんは、光祐君のアサガオの種を配り始める。

命の限り力を尽くして頑張ろうとする光祐君、その命を必死で支えるお母さん。生きている時の楽しさ、死が近づいていく時の恐怖を感じることができる資料である。

3 指導内容と各教科との関連



○ 総合的な学習の時間(きら☆ら)の「ビオトープ再生プロジェクト」では、池の周り、池の中、遊歩道の3つの箇所に分かれ、生き物や植物のよりよい環境を考え、改善策を考えていく。本時では、きら☆らでふれた「命を大切にする」ことについて、深化した授業を展開していく。

4 本時の指導

(1) ねらい

- ・かけがえのない生命を大切にし、精いっぱいに生きようとする心情を育てる。

(2) 資料

- ・読み物資料
- ・ワークシート

(3) 展開

	主な活動と発問 ●中心発問	予想される児童の反応	支援の手立て ◎個に対する配慮や支援 深化を意識した工夫は太文字
導入 5分	1 事前にとった「死」についてのアンケート結果はどうであつたか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・こわい ・暗い ・考えたことがない ・悲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの思いを自由に発表させる。
展開 25分	<p>2 資料「命のアサガオ」を読む。</p> <p>○光祐君が「もう、いやだ！うちに帰りたいよう。」と泣き出したとき、どんな思いだったんだろう。</p> <p>○「ぼく…、もうすぐ、死ぬのかなあ。」と言った時の光祐君の気持ちはどうだっただろう。</p> <p>●夏休みが終わる頃に再入院をした際、光祐君は、どんなことを思っていただろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うちに帰ってお兄ちゃんと遊びたい。 ・病院の生活はいやだ。 ・苦しい、辛い。 ・死ぬのが怖い。 ・本当に死んでしまうのかな。 ・頑張れば病気は治るのかな。 ・死んだらどうなるのかな。 ・家族や友達と離れるのはさみしいな。 ・また学校に行きたい。 ・もっと長く生きたい。 ・元気になりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物資料をアサガオの種をまいたところまでと、その後の事の2枚に分けて配布する。 ・白血病について簡単に説明する。 ・元気に生活を送りたいという光祐君の願いに気付かせる。 ◎「…」から不安な気持ちであることを感じとらせる。 ・「死」への不安と「生」への希望があることを感じ取らせる。 ・「学校に行く日に備えて病院で勉強を始めた」というところから、前向きに頑張ろうと精いっぱい努力する姿に気付かせる。
終末 15分	<p>3 教師の説話を聞く。</p> <p>・本時の学習で感じたことをワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県の中学生2年、猿渡瞳さん（当時13歳）が生前、命の尊さについてつづった作文を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活が、精いっぱい生きていることにつながっていることに気付かせる。 ・様々な生き方を通して、「命の大切さ」を深く考えさせる。 ・今までの生活、これから生き方を見つめ直し、実践していこうとする気持ちを高めさせる。

5 評価

- ・光祐君の気持ちを深く考えることができたか。
- ・命を大切にしていこうとする気持ちを高めることができたか。